

新時代を祝い、屋台の特別曳き揃えも

江戸時代の古い町並が観光客の心を引きつける飛騨高山(岐阜県高山市)。4月中旬には春の風物詩「高山祭」が開催されるが、今年には皇太子さまの新年即位に伴う新元号制定を祝い、屋台の特別曳き揃えが行われる。平成最後の高山祭、一見の価値はある。魅力あふれる飛騨高山の春とこれからの話題を紹介する。

充実する2次交通

今後の飛騨高山の観光を左右するが2次交通だ。「高山が観光地のハバ化機能を発揮するためにも、2次交通整備は欠かせない」と堀泰則飛騨・高山観光コンベンション協会会長は力を込める。

飛騨バスは4月から9月まで、高山飛騨バスセンター下呂バスセンター・下呂駅前馬籠(岐阜)・妻籠(長野)間でバスを運行する。高山、下呂から



飛騨バス運行スケジュール表

区間	バス名	発車時刻	乗車料	降車料
高山(下呂)→馬籠・妻籠	飛騨バス	10:00	3,200円	2,300円
馬籠・妻籠→高山(下呂)	飛騨バス	12:00	2,900円	4,000円

で、東京便の需要掘り起こしにつなげるのが狙いという。現在、空港から高山行きは直行バスはない。計画では、世界遺産である菅沼合掌造り集落付近を結ぶ羽田発着山着上り、2便、高山発着山着上り、4便にそれぞれ接続する。

見ごたえのある桜



県指定天然記念物の荘川桜

線化が実現する可能性があり、そうなれば高山の存在感がさらに増すことになる。

このほか、中部縦貫自動車道の整備も着々と進む。23年度は北陸新幹線が敦賀(福井)まで延伸する。福井との距離は30キロとなり、新たな観光ルートが広がる。2次交通の整備は飛騨高山観光にとって追い風となることは間違いない。

まちの体験交流館

高山市内に昨年7月、新しい施設「飛騨高山まちの体験交流館」がオープンした。市民と観光客の交流、伝統文化や地場産業の振興を図る拠点だ。

伝統的建造物群保存地区内の旧森邸や蔵など計4棟を含む約1,050平方メートルを再整備、交流



昨年7月オープンしたまちの体験交流館

広場や、しょうゆ蔵を改装したカフェ、観光案内所を併設した体験交流館がある。

目的の一つとなる体験交流館は茶室・和室・研修室・展示室などを備え、工芸品の一位一刀彫り、さらには着物体験、匂い袋作りなどが体験でき、飛騨の

高山のハバ化をさらに進め、飛騨バスが高山から下呂を経て馬籠(岐阜)・妻籠(長野)まで運行する路線を開設する。

また、高山が9月から、高山市と下呂市を結ぶ直行高速バスを試験的に走らせる実証事業を始める。

堀泰則 飛騨・高山観光コンベンション協会会長に聞く

新時代の高山観光の在り方

——高山の観光客の入り込みはいかがですか。

「速報値ですが、2018年は44万2千人で、前年比4%増となりました。前年を割ったのは久しぶりで、JR高山本線が7月以降長期閉止されたことなどが要因と見られます」

「外国人旅行者数は55万5千人ほど、8%増と好調でした。統計上、簡易宿所や民泊は増えておらず、これを入れると増加率はさらにアップするでしょう。国内客の減少を外国人客がカバーしています」

国内客の減少を外国人がカバー 新元号祝うイベント開催 市との観光情報一元化を実現

「また、4月30日には市民や観光客とともに『提灯行列と手筒花火で祝う会(仮称)』を5月1日に高山祭屋台の特別曳き揃えを行います。春と秋の祭屋台を一堂に集めるとともに、からくりの演目も予定しています」

「16年12月に高山祭の屋台行事がユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録になりましたね」

も国内に目を向けようという。2次交通網の整備は、「高山を基盤にさまざまな観光地に行けるよう、2次交通を整備していきながら、新元号祝うイベントを開催し、観光客の増加を図りたい」と話す。

「16年12月に高山祭の屋台行事がユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録になりましたね」

「インバウンドも増え、客室が足りない状況だったので、客室増設は歓迎です。問題は人手不足で、スタッフをどう確保するかが課題です。引き抜きという事態になれば既存の施設と新規業者の軋轢も出てきます。秩序ある対応をお願いします。また、市内の小さな旅館は外国人比率が高め、1泊2食から1泊朝食付きにできるようなところも出てきています。この業態変化がどんな影響を及ぼすのか。この数年で、高山観光も変貌を遂げるはずです。情報発信機能を強化しなければ地域間競争に後れを取ってしまいます。肅々と作業に取り組みしており、早い時期にアツクしたい」



いざ乗鞍 2019.7.7 SUN

乗鞍スカイライン(岐阜県乗鞍高原)で開催されるマラソン大会の告知ポスター

山岳観光道路 自転車でも走破

飛騨山脈(北アルプス)の南端、高山市と長野県松本市にまたがる乗鞍岳。標高3,026メートルの剣ヶ峰を主峰とするこの山は、七つの湖、八つの平原があり、壮大な山岳風景を形成している。

乗鞍スカイラインは高山市から乗鞍温泉平をつなぐ山岳観光道路。ここを自転車でも走破できるというのが「乗鞍スカイラインサイクルハイウェイ」だ。16回目となる今年は7月7日に実施される。

自転車でも走行可能な地点として日本一の高所となる。スタート地点は標高1,300メートルの殿下平総合交流センター、山頂は1,814メートル。

参加資格はコースを競技時間内で完走できる自信がある、中学生以上の健康な男女。定員は先着1,000人。参加料(18歳以上、高校生除く)6,500円から。問い合わせは事務局、☎058-264-1150。

ウルトラ マラソン

6月9日開催

今年も6月9日、8回目となる飛騨高山ウルトラマラソンが開催される。国内屈指のタフなマラソンコースといわれ、チャレンジ魂に火をつける。その距離、何と100キロだ。

71キロはヒナナ1向け、100キロはエキスパート向け。参加料は10,000円が1万5千円、71キロ1万5千円。計3,500人を募集する。

参加資格は大会当日18歳以上のウルトラマラソン完走経験のある健康な男女。ちなみに、第7回の100キロの部の優勝者タイムは、男子が7時間49分40秒、女子は8時間44分7秒だった。

参加人数に応じた寄付金を日本ユネスコ協会連盟に寄付し、世界遺産の保護や保全に役立ててもらおうイベントでもある。問い合わせは大会事務局、☎0120-084602(846024)。